

(法第29条関係様式例)

令和5年度事業報告書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂

1 事業の成果

令和5年度は、中期ビジョン『つながる』『つなげる』『仲間と拓く』新潟の防災教育を、みな（学校・地域・家庭・行政・企業・NPO等）で創るふるさと共育にする」の実現に向けて、引き続き以下の3点を重点に様々な活動に取り組んだ。

- ・ より一層の連携・協働を進め、共感の輪を「ふるさと共育化」への推進力にする
- ・ 地域の教育力を結集し、学校防災教育をまちで支える仕組みを創る
- ・ よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創る仲間を増やす

また、令和5年度防災功労者「内閣総理大臣表彰」及び「長岡市長表彰」を受賞した。当法人が防災教育をきっかけに、学び合いによる地域一体での教育と共育社会の創造を目指し、人づくり・地域づくり・まちづくりに取り組んでいる団体であることを発信し、全国的な認知度と対外的評価を高めることができた。

更には、企業・学校・団体とSDGsをテーマにした学習機会のタイアップや、今とこれからの教育と共育について大人が学び、考える講座「まなびのミライ 2023」を上映会と対話を組み合わせた講座開催を通して、県内在住の約220名の受講者とつながることができた。より一層の連携・協働を創り出す市民全体での学びの機会を提案するために、国立教育施策研究所社会教育実践研究センターの社会教育主事講習を修了し、職員2名が長岡市初となる「社会教育士」の称号を得た。

令和5年度に実施したふるさと未来創造堂の事業詳細については、別紙のとおり。

① 学校防災教育の支援事業

1) 南区内中学校防災学習支援業務（新潟市南区） 【継続】

区内の中学校を対象に、地域と連携した防災教育を実践した。今年度も防災士や地域住民を巻き込み、生徒と大人が共に学び合う活動に取り組むことができた。今後も防災士や地域を巻き込みながら、学び合いの防災教育を推進していく。

2) 西蒲区6中学校防災体験学習及びサポーター育成講座実施業務（新潟市西蒲区） 【継続】

「福祉×防災」の視点での防災教育を地域の大人・防災士と中学生が共に学ぶ機会の提案と実践、コーディネートを継続した。また、学校防災教育の支援者の育成として、区内の防災士への研修会及びOJTにも取り組んだ。

3) その他学校防災教育支援 【継続】

県内外の小・中学校135校及び9団体を対象に、相談、資料提供、出前講座、研修会、地域と連携した防災学習や防災訓練の企画・運営支援、総合的な学習の時間や学校防災マニュアルへの助言等を行った。

② 地域及び家庭の防災教育支援事業 【継続】

1) 各種講座の実施

県内外の 13 団体を対象に、防災訓練の企画運営支援、個別避難計画や地区防災計画や防災アプリの使い方を学ぶ講座、子育て支援施設や入浴施設での防災に関するお話会など、地域住民や親子を対象とした楽しみながら学べる防災講座（防災グッズづくり・防災クイズ・避難所の防災備品の組み立てや紹介・非常食体験等）などを実施した。

③ 防災教育の推進に関する交流・イベント事業

1) 新発田市及び新発田市生涯学習課 新発田市・海老名市ヘルシー&スタディプロジェクト事業における防災キャンプ（新発田市） 【新規】

全小学校で実施している防災キャンプ事業をスタディーツーリズムに組み込み、2泊3日で神奈川県海老名市と新発田市の小学4年生が交流するプログラムを実施した。実施後のアンケートでは、参加児童12名の内8名が様々なプログラムの中で防災キャンプが一番心に残ったと回答しており、参加児童の保護者からは、参加前より一回り成長したことを実感したとの声が聞かれた。また、海老名市教育長からは、市内の小学校を一巡するまで事業を継続したいとの声があった。

2) ボーダレスにいがた 防災体験コーナー（長岡市） 【新規】

「体験的に学べる機会が少ない」という障がいを持つ子どもの保護者の声から、だれもが参加できる体験イベントにて、防災体験コーナーの企画及び当日までの調整を行った。

「他の人に迷惑をかけないか心配であきらめていた楽しそうなイベントに参加してみたら、起震車にも乗ることができた。」「こういったイベントはこれまでなかった。ぜひ継続してほしい。」といった声が聞かれ、多くの方に防災について考えていただく機会となった。

④ 安心安全なまちづくり及び地域づくりの支援事業

1) 地域防災教育事業（長岡市） 【継続】

校区内に居住する学校の理解者としてのサポーター育成を進め、市内81校中72校に、サポーター（24名）を配置することができた。長岡版マイ・タイムライン「わが家の防災タイムライン（小学4～6年生用、中学生～大人用）」の改定及び普及啓発に加え、新たに「わが家の防災タイムライン土砂災害版（小学4～6年生用、中学生～大人用）」の試行版を作成した。

また、公共施設等に出向き防災の啓発を行うサロン事業にて、フリースクールあうるの森の学園祭に出展し、これまで接点を持てなかった不登校の児童・生徒に対する防災教育を行うことができた。

2) 北区多世代交流型防災訓練「まなぼうさい」運営支援（新潟市北区） 【新規】

楽しみながら防災・減災を学べるイベントを新しい防災訓練として地域に定着させ、持続可能にするために、今年度は中学生と地域コミュニティを対象とした研修及びイベント当日の運営サポートを防災士と共に実施した。

3) 北区自治協議会地域づくり部会 ワークショップ運営 【継続】

北区民に防災の大切さを伝えるために視察や勉強会を実施してきた自治協議会地域づくり部会を対象に、令和6年度にどのようなことをどのようにして伝えていくかを整理する

ワークショップの企画と運営を実施した。

4) その他講座支援

県内外の 23 団体を対象に、地域防災や防災教育、安心・安全なまちづくりを考えるための相談や助言、研修会等を実施した。

⑤ よりよい未来を創る事業

1) こども防災未来会議®2023 及びかべ新聞展示会の開催（長岡市） 【継続】

今年度も防災について学んだ子どもの成果発表と交流、創造の機会をハイブリッド形式のイベントとして開催した。参加校は 10 校、応募作品数は 90 点、当日のライブ配信は 140 回再生された。

2) 信濃川サミット 2023 運営支援 【継続】

新潟県内の信濃川流域市町村で川について学んだ小学校を集め、学んだ成果を伝え合い、交流するイベント「信濃川サミット」の企画・運営支援を行った。参加校は 7 校、参加児童は 29 名、当日のライブ配信は 277 回再生された。

3) 今とこれからの教育を大人が学ぶ勉強会「まなびのミライ 2023」の開催 【継続】

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を両輪で回しながら切り拓く未来の実現を目指し、今年度はドキュメンタリー映画「夢みる小学校」の上映会と感想シェア会を開催した。延べ 81 人が参加した。

⑥ 情報発信事業

1) 動画コンテンツの作成・配信、情報発信支援 【継続】

(株) エヌ・シィ・ティと共同で防災に関する動画コンテンツの作成・配信を行った。

また、令和 6 年度能登半島地震の発生に伴い、NHK と地震発生時の身を守るポイントや震災後の子どものストレスケアについて紹介する番組作成を行った。その結果、次年度の講座や研修依頼につながった。

2) SNS を活用した情報発信強化 【継続】

Instagram や Facebook などの SNS にて、複数枚の写真資料や動画を用いた情報発信を積極的に行った。情報発信の回数は 70 回、SNS 利用者の目に触れた人数 延べ 20,986 人（内、動画での発信 37 回、再生数 14,075 回）で、これまで情報を届けられなかった人にも当法人の活動を知っていただくきっかけになっている。次年度は新規の事業獲得にもつなげたい。

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(単位：千円)

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
①学校防災教育の支援事業	1) 南区中学校防災教室防災学習支援業務	1) 年度当初から令和5年11月	1) 新潟市	3人	1)～3) 県内外の小・中学校、高等学校の教員及び子ども、保護者、地域住民、防災・教育関係団体	521
	2) 西蒲区6中学校防災体験学習及びサポーター育成講座実施業務	2) 年度当初から令和6年2月	2) 新潟市	2人		1,542
	3) その他学校防災教育支援	3) 年度当初から年度末	3) 全国	2人		988
②地域及び家庭の防災教育支援事業	1) 各種講座の実施	1) 年度当初から年度末	1) 県内	3人	1) 県内の未就学児、小・中学生、保護者、地域住民、防災・教育関係団体等	497
③防災教育の推進に関する交流・イベント事業	1) 新発田市・海老名市ヘルシー&スタディプロジェクト事業における防災キャンプ	1) 年度当初から7月	1) 新発田市	3人	1) 長岡市内の幼・保育園や小学校に通う児童と保護者等	148
	2) ボーダレスにいがた 防災体験コーナー	2) 令和5年6月から11月	2) 長岡市	1人	2) 長岡市内の全ての子どもと保護者等	50
④安心安全なまちづくり及び地域づくりの支援事業	1) 地域防災教育事業	1) 年度当初から年度末	1) 長岡市	5人	1) 長岡内の小・中学校の教員及び子ども、保護者、地域住民、防災・教育関係団体	6,484

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
	2) 北区多世代交流型防災訓練「まなぼうさい」運営支援	2) 令和 5 年 5 月から 10 月	2) 新潟市 北区	3 人	2) 新潟市北区の地域住民、中学生 等	220
	3) 北区自治協議会 地域づくり部会 ワーク ショップ運営	3) 令和 5 年 12 月から令和 6 年 3 月	3) 新潟市 南区	2 人	3) 新潟市北区自治協議会地域づくり部会	308
	4) その他講座支援		4) 全国		4) 地域住民等	91
⑤よりよい未来を創る事業	1) こども防災未来会議®2023 及びかべ新聞展示会の開催	1) 年度当初から年度末	1) 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい他	16 人	1) 県内の小・中学校の教職員と児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体 等	1,110
	2) 信濃川サミット 2023 運営支援	2) 令和 5 年 10 月から 12 月	2) 県内	3 人	2) 県内の小学校、防災・教育関係団体 等	1,107
	3) 今とこれからの教育を大人が学ぶ勉強会「まなびのミライ 2023」の開催	3) 年度当初から令和 5 年 10 月	3) 県内	2 人	3) 地域住民、教育関係者、民間企業、学生 等	238
⑥情報発信事業	1) 動画コンテンツの作成・配信、情報発信事業	1)、2) 年度当初から年度末	1)、2) 全国	2 人	1)、2) 子ども、保護者、地域住民、防災・教育関係団体・企業等	10
	2) SNS を活用した情報発信強化					12

参考資料 1 サポート実績一覧（2023. 4. 1～2024. 3. 31）

学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）及び教育委員会等

○防災教育等に関するサポート 230 校 9 団体

講座、研修会等 120 回

打合せ、相談、コーディネート等 延べ 400 回以上

三条市教育委員会 学校教育課	新発田市教育委員会 生涯学習課	新発田市青少年宿泊施設 あかたにの家
上越市教育委員会 学校教育課	長岡市教育委員会 学校教育課	長岡市教育委員会 中央公民館
新潟市教育委員会 学校支援課	北海道下川町教育委員会（新）	公孫会長岡支部 2・3 班（新）
三条市立の全 28 小・中学校、中等教育学校	上越市立の全 70 小・中学校	長岡市立の全 81 小・中学校
新発田市立の全 15 小学校	胎内市立黒川小学校	田上町立田上中学校（新）
新潟市立味方中学校	新潟市立有明台小学校	新潟市立岩室中学校
新潟市立臼井小学校	新潟市立臼井中学校	新潟市立内野中学校
新潟市立亀田小学校（新）	新潟市立白根北中学校	新潟市立白根第一中学校
新潟市立関屋小学校	新潟市立曾根小学校	新潟市立月潟中学校
新潟市立中之口中学校	新潟市立西川中学校	新潟市立白山小学校
新潟市立白南中学校	新潟市立万代長嶺小学校（新）	新潟市立東石山中学校（新）
新潟市立東新潟中学校（新）	新潟市立巻西中学校	新潟市立巻東中学校
新潟市立潟東中学校	新潟市立巻南小学校	新潟市立南万代小学校（新）
新潟市立味方小学校	新潟市立葛塚中学校	新潟市立葛塚東小学校
北海道下川町立下川中学校（新）	見附市立葛巻小学校	見附市立新潟小学校
見附市立南中学校（新）	南魚沼市立大和中学校（新）	柏崎市立松浜中学校（新）

地域・団体・企業等

○地域防災や防災教育の相談、講師、イベント、研修会等 36 団体 延べ 70 回以上

おやこ de 紡ぎ（親子防災イベントでの防災講座）
株式会社エヌ・シー・ティ（子ども向け防災教育映像の共同作成）
株式会社エコロジー・サイエンス（信濃川サミット運営支援）
（公社）中越防災安全推進機構（中越大震災メモリアル基金事業）
国土交通省信濃川河川事務所（信濃川流域の水防災意識向上についてのヒアリング）
三条地域振興局環境センター（川の水質試験を取り入れた学習支援）
新発田市市民まちづくり支援課（新発田市・海老名市ヘルシー&スタディプロジェクト事業）
総務省消防庁（防災意識向上プロジェクト）
胎内市社会福祉協議会（福祉ジュニアスクールでの防災講座）
胎内市総務課（令和4年度 胎内市防災士連絡協議会講座）
チーム中越（足湯研修会）
特定非営利活動法人多世代交流館になニーナ（防災フェスタ）
特定非営利活動法人くらしサポート越後川口（新潟県中越大震災追悼式典イベントでの実施）
長岡技術科学大学（小・中学校とのコーディネート）
長岡市河川港湾課（河川防災ステーションの運営相談等）
長岡市子育ての駅 すこやか・もりもり・やまっこ（母子向け防災講座）
長岡市大島コミュニティセンター（自治会及び子ども向けの防災講座）
長岡市川崎コミュニティセンター（親子向け防災講座）
長岡市下川西コミュニティセンター（親子向け防災イベント・地域向け防災講座）
長岡市青葉台地域連合自主防災会（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）
長岡市宮本地域連合自主防災会（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）
長岡市大積地域連合自主防災会（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）
長岡市青葉台コミュニティセンター（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）
新潟市北区地域総務課（自治協議会防災イベント事業の相談・提案）
新潟市北区自治協議会（自治協議会防災イベント事業の相談・提案）
新潟市北区防災士の会（自治協議会防災イベント事業の相談・提案）
新潟市江南区地域総務課（自治協議会 防災お話会）
新潟市豊栄地区公民館（地域絆事業 防災スマホ講座）
新潟市防災士の会 西蒲支部（防災教育研修会）
新潟日報社長岡支社（防災マニュアル改定の相談）
発達障害支援ひだまりの会（防災研修会）
広島県竹原市危機管理室（総務省消防庁 防災意識向上プロジェクト）
福井県勝山市総務課（防災教育とまちづくり及び区長連合視察の相談）
フリースクールあうるの森（学園祭での防災講座）

参考資料2 メディア等で取り上げられた活動（2023. 4. 1～2024. 3. 31）

NCT 2023/5/30 水害への備え



NHK 2023/7/26 防災キャンプ（川体験） 及び

新潟日報 2023/8/1 スタディーツーリズム（防災キャンプ）



災害時 協力が大切だね
新発田 児童ら防災キャンプ



防災や観光を盛り込む教
育旅行「スタディ・ツーリ
ズム」を誘致している新発
田市で、神奈川県海老名市
の児童が参加する防災キャ
ンプが開かれた。県外から
の受け入れ第1号で、新発
田市の小学生と力を合わ
せ、自然の中での体験や避
難生活を想定した活動な
こととなった。

市は2021年度から、
スタディ・ツーリズムの誘
致を始めた。災害時協定を
結ぶ縁で、海老名市が取り
組みに賛同。新発田市が毎
年、市内の小学校単位で行
っている防災キャンプに、
海老名市の児童が参加する
こととなった。

市内の「あかたにの家」
に7月下旬、豊浦小の4年
生6人と海老名市の3小学
校の4年生6人が集合。児
童らは避難所に見立てた部
屋で、自分たちが寝泊まり
するスペースの設営に挑戦
した。写真。

エリアの割り振りやブラ
イパシーへの配慮などを話
し合い、自分たちで描いた
図面を基に、段ボールの仕
切りを組み合わせた。

海老名市の中新田小4
年、大越彩花さん（9）は災
害はいつ起こるか分からな
いので、普段から協力し合
うことを心がけたいとし、
豊浦小4年の神田博斗君
（10）は「避難所での生活で
は、みんなの力を合わせる
ことが大切だと分かった」
と話した。

災害復旧時、安全な電気の使い方は？

安全に電気を使う方法を実践的に学べるのが特徴だ。防災用品を取り扱う船山（長岡市稲保4）が9月に発売し、全国の小中学校などにPRしていく。

地域
ビジネス
Local Business

長岡技術科学大学（長岡市上富岡町）と東京電力が共同開発した、防災教育で使う教材が商品化される。実際のブレーカーを使い、地震や洪水からの復旧時に

長岡技科大が東電と共同開発



長岡技術科学大と東京電力が開発した防災教育教材。奥は同大のヌル・アデリン・アブバカル助教＝長岡市上富岡町

改良重ね小中学校にPR

教材の名前は「防災ワク
ズムと予防方法を伝える。
子」(R)教材「アレルギー
キット」では、アレルギーは
見えないけれど、アレルギー
キツト。災害時に漏電など
で多発する通電火災を解
説する映像と、バッテリー
を上げる電気がつくこ

予定し、9月に発売する
込み。小中学校の防災授
での活用を想定してい
通し、製図化が決まった。
教材の開発に携わった技
科大のヌル・アデリン・ア

科大のヌル・ア・デリン・ア・バカル助教(32)は「マレーシア出身だが、日本だけでなく、海外でも教材が広まってほしい」と期待した。

技科大と東電は20年頃から、防災・防災をテーマとすると複数の共同研究に取り組んでいる。既に、一度使った水を過って繰り返し使うことができる浄水装置が、建設現場向けに製品化された。ユニトラク(新潟県北越区)から販売されている。

そのため、8月2、3日の会場、岡岡つた大化大会の会場に設置された。

防災教材商品化へ

で動くブレーキキットがとを学べる
セットになっている。 製造は精

始まった2020年以降、

市民防災安全会の平和義
会長は、災害時の行動
を事前に時刻で整理して
おく(タイ・タイムライン)
の地域単位での策定は途上
だとし、今後の支援強化に
意欲を示した。

ふるさと未来創造堂の中
野雅也事務理事・事務局長
は、「地域人材の掘り起
こしを続け、各地の学校と
つないでいきたい」とした。

磯田市長は「さらなる広
がりをつくってほしい」
と、団体は選ばれた。

人、団体が選ばれた

7

村上市消防団など
防災功労者たたえ

官邸で表彰状

書時の人命救助や防災関係の活動に、災害
 害時の整備に尽力した防災関係者や、功
 功芳者の表彰式を官邸で開いた。今年が関東大震災発生100年
 から100年の節目であることから、これに
 結集して初めて奏功と力する。災害に
 力してもいい」と呼びかけた。

愛媛県は、昨年8月の大雨災害で人命確保や被害軽減に取り組んだ村上市消防団など37団体、11個人。

ことしの交通事故

	15日	合 計	前年比
発生(件)	10	1,891	+30
死者(人)	1	37	+ 3
負傷(人)	10	2,150	+14

土砂災害の調査・研究に
取り組んできた広島大の海
堀正博名誉教授は「近年、
自然災害は多発化、激甚化
傾向にある。国民の安全と
安心確保のため研さんを積
む」と話した。

新型コロナウイルスに

関する県の相談窓口

新型コロナ

健康相談センター

025(385)7634

025(385)7541

025(256)8275

毎日24時間対応



地域防災に貢献

長岡2団体に総理大臣賞

地域の防災体制や防災意識の向上に貢献したとして、中越市民防災安全士会（長岡市千歳）とNPO法人ふるさと未来創造堂（同市福住）の2団体が、内閣府の「防災功労者内閣総理大臣表彰」に輝いた。2団体の関係者2人がアオーレ長岡に機田洋市市長を訪ね、表彰を報告した。

中越市民防災安全士会は2004年10月の中越地震の経験から、地域住民による防災知識の習得と実践につなげようと、市民有志が07年に結成。一般向けの相

談窓口「防災よろず相談」を常設するほか、町内会などに講師を派遣して活動を手伝い、地域での防災の活性化に貢献したことが認められた。

ふるさと未来創造堂は学校、地域、家庭が一体になった防災教育を推進する目的で15年に活動を始めた。連携する地域住民による学校訪問やヒアリングを通じて、防災教育をコーディネートするなか、小中学校を支える仕組みを構築したことが評価された。

9月26日の訪問で、中越

避難所生活対応力を学ぶ（見附市立葛巻小）

避難所での生活は大変そう

避難所での生活は大変そう

避難生活 対応力学ぶ

見附・葛巻小で防災授業

中越地震 19年

2004年10月23日の中越地震から19年となるのを前に、見附市反田町の葛巻小学校は19日、いざという時に命を守る実践力を身に付ける防災スクールを実施した。4年生約60人が参加し、災害時の避難生活に必要なことや、段ボールでど

2004年10月23日の中越地震から19年となるのを前に、見附市反田町の葛巻小学校は19日、いざという時に命を守る実践力を身に付ける防災スクールを実施した。4年生約60人が参加し、災害時の避難生活に必要なことや、段ボールでど

2004年10月23日の中越地震から19年となるのを前に、見附市反田町の葛巻小学校は19日、いざという時に命を守る実践力を身に付ける防災スクールを実施した。4年生約60人が参加し、災害時の避難生活に必要なことや、段ボールでど



段ボールなどを使って避難スペースをつくる児童＝19日、見附市反田町

全県避難を経験した長岡市の山古志地域の人口は震災前の約3分の1になった。被災地は軒並み人口を減らし、地域をどう持続させていくかという課題に直面する。復興支援や地域づくりを目指す中、被災地は復興と復興支援で訪れた人たちの交流を続け、関係を深めてきた。山古志では素晴らしい自然や人情など地域資源を生かした備えに人が集まる。観光客受け入れの新たな仕組みづくりの模索も続く。

新型コロナウイルス禍で停滞していた取り組みも再開し、川口地域では東京都柏江市民との交流が復活した。被災から生まれた縁を大切にしたい。

教訓の伝承には防災教育が欠かせない。NPO法人ふさと未来

社説

万一の備え考える機会に

中越地震19年

秋の夕陽に包まれた土曜日の午後5時56分だった。突き上げるような揺れ、繰り返す余震の恐怖を風化させず、今後の防災や減災につなげていきたい。

旧川口町（長岡市）を震源とするマグニチュードM6.8、最大震度7を観測した中越地震から、23日で19年となる。

秋の夕陽に包まれた土曜日の午後5時56分だった。突き上げるような揺れ、繰り返す余震の恐怖を風化させず、今後の防災や減災につなげていきたい。

旧川口町（長岡市）を震源とするマグニチュードM6.8、最大震度7を観測した中越地震から、23日で19年となる。

秋の夕陽に包まれた土曜日の午後5時56分だった。突き上げるような揺れ、繰り返す余震の恐怖を風化させず、今後の防災や減災につなげていきたい。

旧川口町（長岡市）を震源とするマグニチュードM6.8、最大震度7を観測した中越地震から、23日で19年となる。

新潟日報 2023/11/5

ボードレスにいがたでの

防災講座

誰でも楽しく防災学ぶ

親子ら地震の揺れ体験

長岡



障害の有無にかかわらず、楽しみながら防災を学ぶイベントが4日、長岡市大手通1のオーレ長岡で開かれた。地震の揺れを体験できる車や、障害のある人が店員の飲食ブース、出演したダンスステージなどが設けられ、訪れた人は誰もが暮らしやすい社会づくりに貢献できることを実感した。障害がある子どもの母親ら、

防災イベントで地震の揺れを体験する来場者。4日、長岡市大手通1。地震体験車のコーナーでは、親子連れが最大震度7の揺れを体験し、「揺れが大きくて倒れそう」となると地震の怖さを体感していた。聴覚障害のある人が店主を務めたカフェでは、来場者が手話通訳を通して会話をしたり、身ぶりで注文したりしていた。実行委の一員で次男(13)さんに知的障害がある三浦由香さん(49)＝長岡市＝は「障害の特性を理解した配慮や手話通訳を置くことで気軽に参加できる人は増える。理解の輪を広げ、今後もイベントを開いていきたい」と話した。

新潟日報 2023/12/14

こども防災未来会議®2023

読売新聞オンライン 2023/11/27

信濃川サミット

児童信濃川の恵み学ぶ「分水サミット」で発表

2022/11/27 05:00

この記事をストックする



川について学んだことを発表する児童ら（26日、新潟市のホテルで）

大河津分水路（燕市、長岡市）の通水100周年と、関屋分水路（新潟市）の通水50周年を記念し、信濃川流域の9市町村の9小学校の児童代表37人が集い、川について学んだことを発表する「分水サミット」が26日、新潟市のホテルで開かれた。

同市や国土交通省信濃川河川事務所などでつくる両分水路の周年事業実行委員会が、記念の年に川のことを知り、未来へとつなげてほしいと企画した。

サミットでは、代表の児童が、それぞれの学習成果をスクリーンに映し出して発表した。川は水害をもたらす一方、豊かな自然や水の活用など恵みを与えることなどをまとめたほか、分水路の魅力を語るアイデアなども提案した。燕市立分水小4年の女兒（10）は「大河津分水路はいろんな人を守ってきたということを、多くの人に知ってもらえた」と喜んでた。

防災かべ新聞コンクールで入賞した小中学生が内容を発表したこども防災未来会議®
＝長岡市大手通2＝



災害時は助け合おう

かべ新聞で成果発表

小中学生が防災・減災を門に、県内から90点の応募考える「こども防災未来会議」があり、17点が入賞した。議が、長岡市大手通2の長岡市防災センターで開催された。オンラインも開催された。

「災害時は助け合おう」というテーマで、防災に関するかべ新聞コンクールの表彰式も行われ、児童、生徒がこれまで学んできたことを発表した。

長岡市のNPO法人「ふるさと未来創造塾」が9日に主催。2014年に新潟日報社が開いた防災かべ新聞コンクールを引き継ぎ、毎年開催している。

コンクールは小学校、中学校、高学年、中学生の3部

め入賞した児童と生徒ら約70人が参加した。小中学校の部で、長岡市立鰐野町小学校の4年松組3班のかべ新聞は、04年の7・13水害などを綴った両親から聞いた話や地区での取り組みをまとめた。

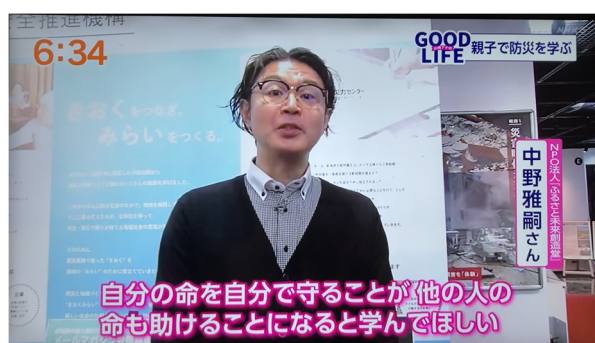
「災害時は誰とも助け合おう」が大事と、普段から避難所などを確認しておく必要がある」と新聞を作る過程で学んだことも発表した。井上磨君(9)は見る人に伝わりやすいように体験や分かったことを入れた。受賞できてうれしいと話した。

NHK 明日をまもるナビ 2024/1/21

集まれ BOSAI 仲間

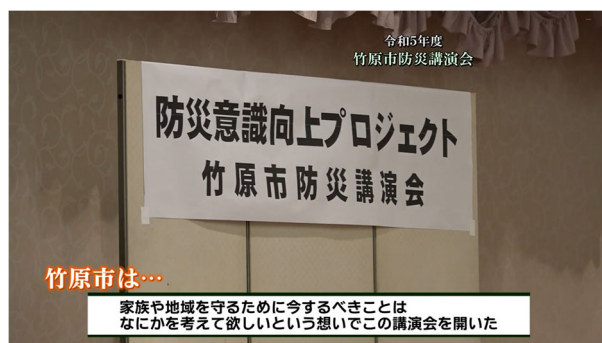


NHK グッドライフ 2024/2/2 親子で防災



たけはらケーブルネットワーク「タネット」 2024/3/2～

タネットニュース及び市民向け防災講演会



参考資料3 賞罰（2023. 4. 1～2024. 3. 31）

令和5年度防災功労者「内閣総理大臣表彰」及び「長岡市長表彰」受賞



- 令和5年度 防災功労者「内閣総理大臣表彰」
令和5年9月15日（金） 会場：総理大臣官邸

- 長岡市長表彰
令和5年11月3日（金・祝） 会場：アオーレ長岡

防災の普及啓発の分野における貢献が認められ令和5年度「内閣総理大臣表彰」及び長岡市長表彰を受賞した。



令和5年度防災功労者
内閣総理大臣表彰 受賞式

政府広報オンライン HP
2023/9/15



長岡市長表彰 受賞式
2023/11/3